

令和2年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和2年7月(次回調査は令和3年1月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 83.7%(128名/153名) <前回 81.7%(令和2年1月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	90	70.3%
女性	38	29.7%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	33.6%
沿岸南部	85	66.4%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	10	7.8%
40歳代	23	18.0%
50歳代	53	41.4%
60歳以上	42	32.8%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	70	54.7%
被災なし	54	42.2%
不明	4	3.1%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 49名(38.3%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 34名(26.6%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 45名(35.2%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が43.3%と、前回(45.2%)を1.9ポイント下回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も83.5%と、前回(88.7%)を5.2ポイント下回った。

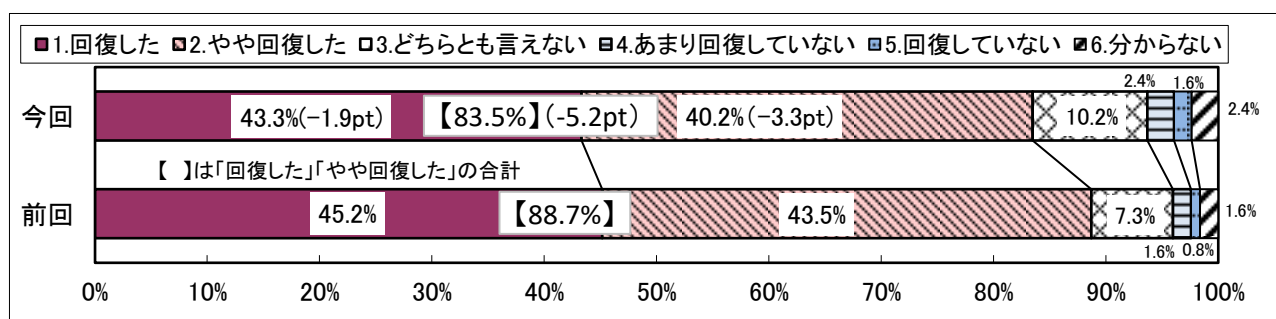
○地域別では、「回復した」が沿岸北部で44.2%と前回(51.2%)を下回ったが、沿岸南部では42.9%と前回(42.0%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で86.1%と前回(83.7%)を上回り、沿岸南部では82.2%と前回(91.4%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は3.9%と、前回(7.6%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が35.4%と、前回(35.5%)とほぼ横ばいであり、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は65.3%と前回(70.2%)を下回った。

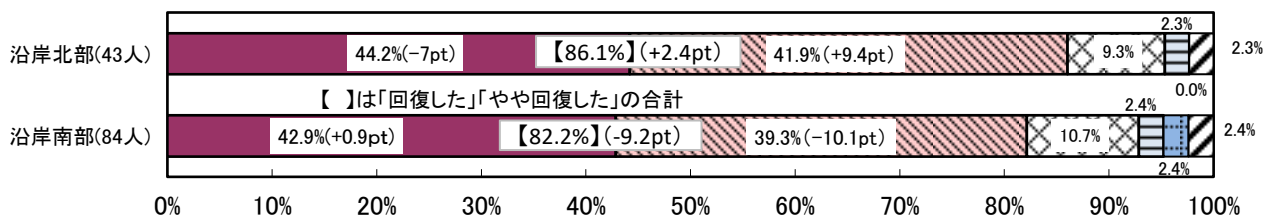
被災者の住宅再建や雇用環境の改善、復興道路の整備が進んでいることにより生活は回復したという声がある一方で、コミュニティ形成に課題があることや、今後の被災地における高齢化や人口減少、新型コロナウイルスの影響による不安の声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

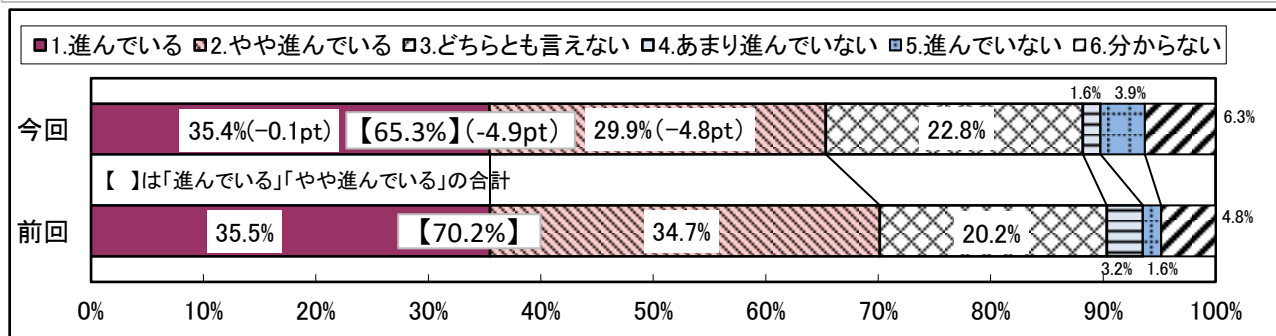


地域別

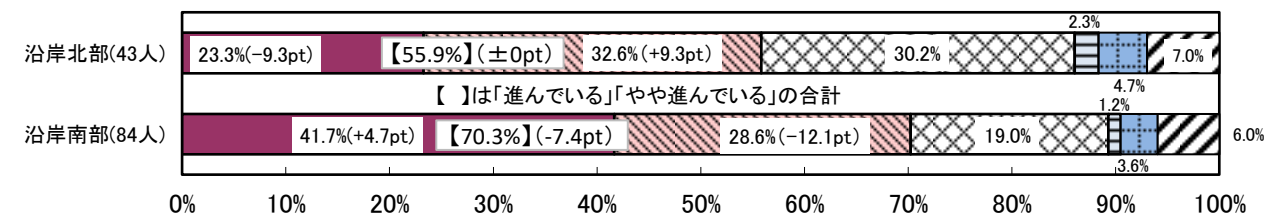


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ()内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆殆んどの方が、住宅を再建しており、また稼働年齢層の方々は殆んど職に就いており、被災者の生活は回復している。ただ、新たな問題としてコロナの影響が出て来ている。これが大きな問題である。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆住宅再建が進み生活環境は回復したと思う。これからは地域活性化のためコミュニティー活動をどう進めるか課題であると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆住宅再建もほぼ進み、暮らしの面での生活は安定して来たように思われる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆仮設に住んでいた被災者もほとんどが復興住宅や新しくお家を建てて仮設生活から抜け出せている。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆三陸沿岸道路の建設が進められて、交通手段が改善しつつある。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆被災を理由とした求職者はほとんどいない。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆9割以上は自宅再建や復興住宅の入居が決まり安定した生活をしている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆災害公営住宅にも入居が完了し、自己再建の住宅も建ち揃い、住まいの確保は出来たように感じられる。一方、人口の流失や減少による地域の過疎化は止まらず、限界集落に近づきつつある。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆仮設住宅の退去、撤去が始まり、ようやく住民方が一歩踏み込んで、住宅の再建、公営住宅の入居等、落ち着いた住環境になって来ている。復興住宅にせっきく入居しても、家賃が急に高くなり(条例に基づくも)、退去したり、生活が困っている方々も多く聞かれる。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆自宅を自力で再建した方と、復興住宅に入居された方では、コミュニティに違いを感じる。特に復興住宅にお住まいの一人暮らしの高齢者の方へのサポートが必要だと思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆住宅を再建出来ていない方が、まだ多数いらっしゃる。 新型コロナウイルスの影響により回復に歯止めがかかった。震災からの回復は見られるが一歩後退した。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生活の回復が年々順調に進められてきたこの時点での新型コロナウイルス感染症の発生により、社会全体が社会が変わらざるをえない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆震災後の住環境整備は完了し、その後の台風被害の住環境整備もほぼ完了した。それに伴い災害特需に支えられていた地域経済に陰りが見え始め、加えて急激な少子高齢化により活気が不足して来ており、生活の回復に支障をきたしている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆復興の工事は進んでいるが、被災からの年月がたつにつれて、住民の高齢化や人口減少の影響がどんどん進んでいる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ここ数年かけて東日本大震災で被害を受けた漁業者は、ようやく生産基盤が整備を終え生産活動に入り水揚げが進んでいたが、新型コロナウイルスによって、水産物の相場(価格)が下がり、物によっては、市場からの発注が激減し、所得が減収し、震災で家屋を失って新居の住宅ローン返済にも影響が出ている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆住環境は進んでいるところは見られるが、心の傷の回復はなかなか進んでいないと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が16.4%と、前回(19.4%)を3.0ポイント下回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も55.5%と、前回(57.3%)を1.8ポイント下回った。

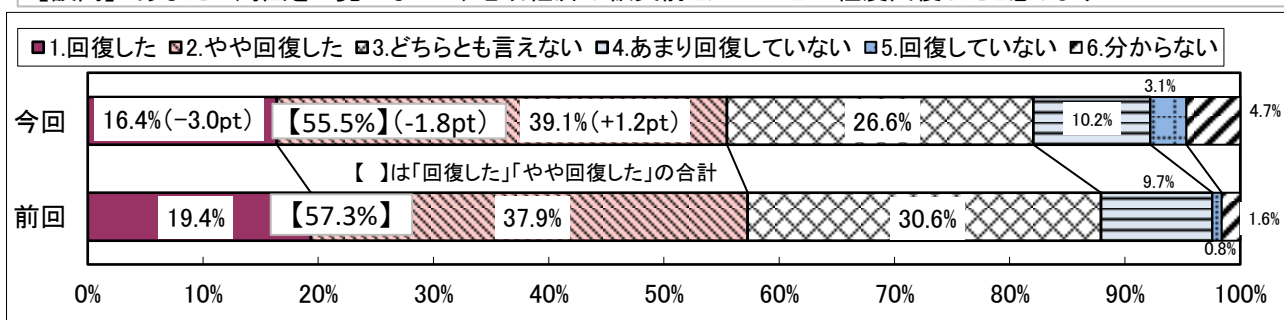
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で16.3%と前回(23.3%)を下回り、沿岸南部でも16.5%と前回(17.3%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で62.8%と、前回(62.8%)と同値であり、沿岸南部では51.8%と、前回(54.3%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は11.0%と、前回(8.5%)から広がった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が13.6%と、前回(13.0%)を0.6ポイント上回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計は34.4%と、前回(43.1%)を8.7ポイント下回った。

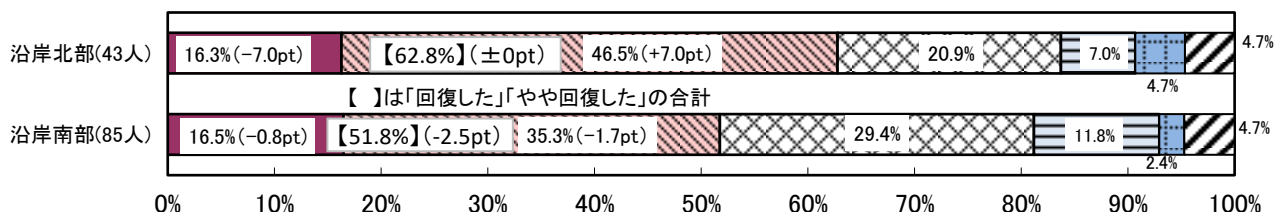
市街地への店舗・事業所の再建、水産業の基盤整備などが進み、回復してきているとする一方で、復興需要の縮小、主要漁種の不漁、新型コロナウイルスによる地域経済への影響を課題とする声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

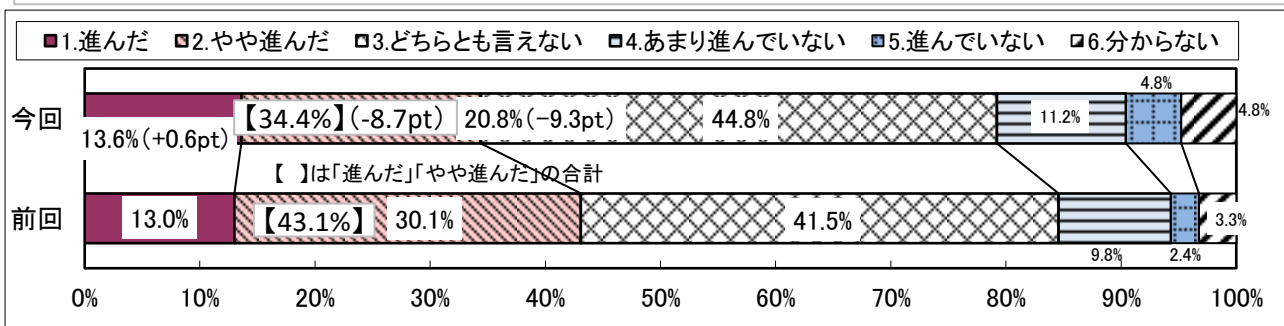


地域別

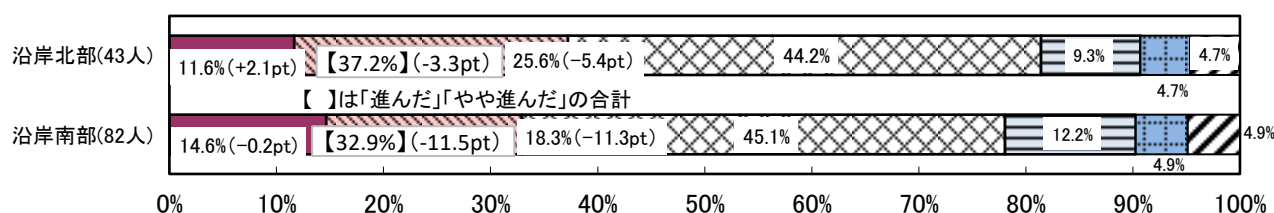


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆コロナの関係で経済は落ち込んでいるが、震災から地域経済は回復していると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災前と同じくらい活気だってきた。新しいお店も増え、以前の生活が戻ってきていると感じる。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆水産業の基盤整備等は回復したと思う。地域経済は漁業が中心で、サケ・イカ等漁獲量の減少により経済の落ち込みが心配される。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道の開通で、利便性は向上しているが、開通した事で、地域の商店に大きな影響が出ている。地元商店が賑わうイベント等が必要と思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆空地がクローズアップされているが、市街地への店舗・事業所の再建は着実に進んでいると感じる。道の駅・津波伝承館の完成もあり県内・外から多くの観光客が訪れている(コロナ前)。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆地域住民、行政も皆経済の回復に向けて努力していると思われる。ただし、震災だけでなく、台風被害・コロナ被害等、地域経済の活性化には厳しい状況が続いているのだと感じる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆町の商工業分譲地に建物が建ってきている。事業用の建物で地域活性化を期待している。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復旧・復興工事の終了で工事関係の人が減った。商店・食堂、民宿等の客減が原因。漁業ではワカメ生産は良好も、ホタテの貝毒、ウニ漁の不振、新型コロナウイルスの影響でホタテ・ホヤの売価が安値続き。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆あいかわらず水産業の回復が遅れているように思う。地球規模の異常気象と相まって、外洋、近海、養殖それぞれが不漁となっており、この先回復するかどうか見えないのが大変だ。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆経済の観点からは1~2年前までは復興関連工事のおかげで町内飲食店、宿泊業者、建設工事関連とも活況を呈していたが、昨年あたりから復興関連工事もピークアウトを迎えたことに加え、三陸道の開通により町内が通過点となってしまったことが影響し、町内の経済も停滞感が強まっていると感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆東日本大震災において被災した水産業については施設などハード面のほか操業についても回復は進んできていると思われる。しかしながら、地域経済については新型コロナウイルスの感染に伴う一連の自粛の影響から観光と関連業種を中心として落ち込みを見せており、先行きが懸念されるものとなっている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆震災の被害状況からは、回復したと思う。しかし、漁業に関しては、サンマやサケの不漁ということ考えると、今後の経済に不安を感じる。 ・トラウトサーモンの養殖に期待している。 ・漁協(閉伊川)によるサクラマス稚魚放流にも期待している。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆震災特需によりある程度集客があったところも復興関係工事等が少なくなり、震災前よりも厳しい状況にあるのではないかと感じる。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆農林水産業の漁船、農地の整備整備は完了し、事業所に対してもグループ補助金等の支援がなされ生産設備等の再建が図られたが、漁獲量の減少が続き、設備の有効活用ができない状態に加えて、今回の新型コロナの影響が地域経済の回復の重大な支障になっている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆農業、漁業では農地の災害復旧、漁船、漁港等の災害復旧は完了している。しかし、二度の台風被害や、漁業の不漁が続き、あまり回復しているとは感じられない。また、新型コロナウイルスの影響による観光、宿泊面での影響も大きい。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆農業・漁業については、先行きが心配。特に漁業(水産業を含む)は、水揚量が激減しており、また、働き手の高齢化が加速しているため、危機的な状況と感じている。一方、脱炭素社会が進展する中で再生可能エネルギー産業に関しては、バイオエネルギー向けのチップ生産が盛んになってきており、林業については、上向いている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が70.1%と、前回(68.0%)を2.1ポイント上回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は7.1%と前回(6.4%)を上回った。

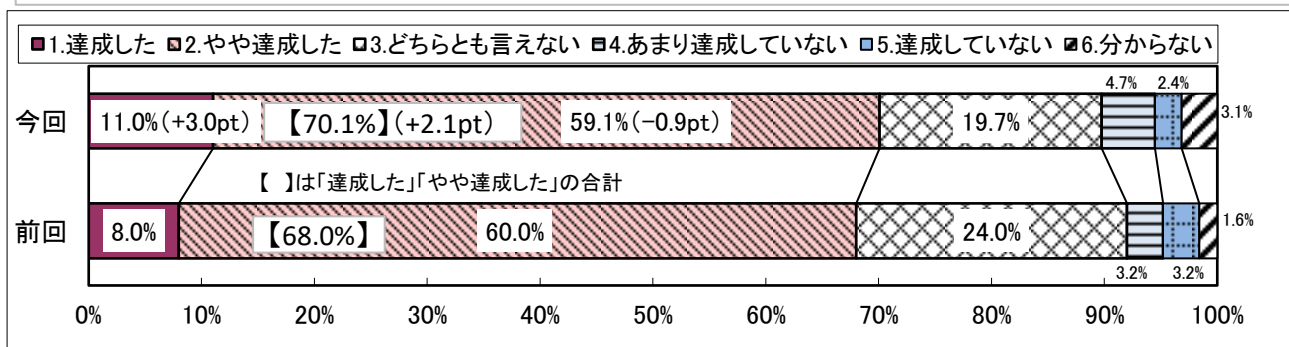
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で69.7%と前回(62.8%)を上回り、沿岸南部では70.2%と前回(70.7%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は0.5%と、前回(7.9%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が65.8%と、前回(61.6%)を4.2ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は6.4%と、前回(9.6%)を下回った。

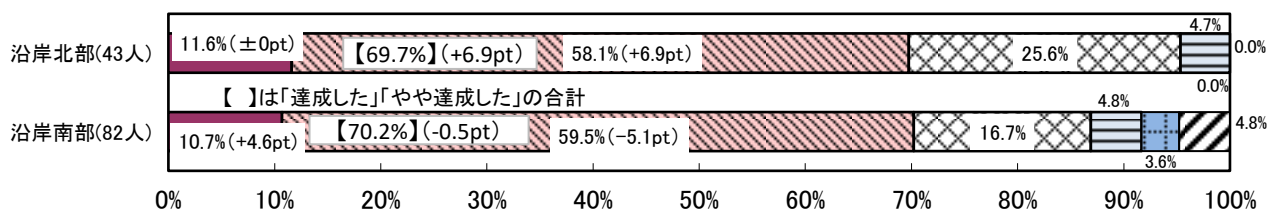
防潮堤や復興道路等の整備、避難誘導標識の整備など、ハード面の進捗を評価する声がある中、防災意識の向上等のソフト面の安全対策や、台風災害に対する備えを課題とする声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

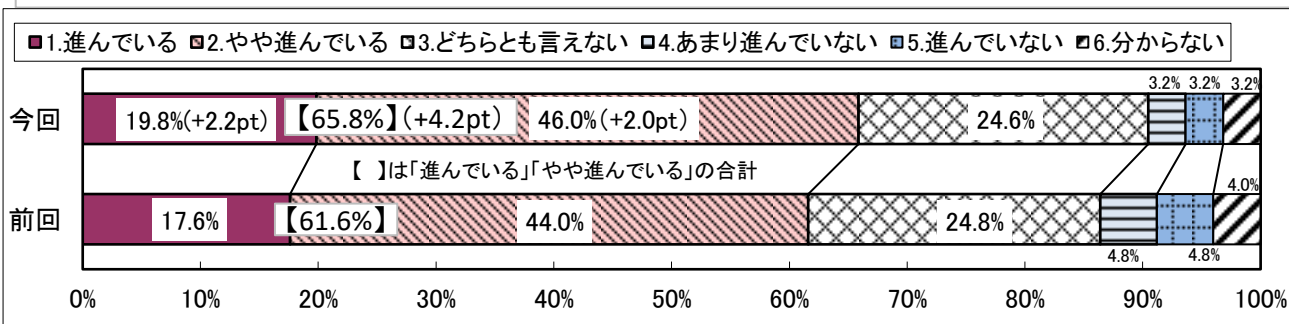


地域別

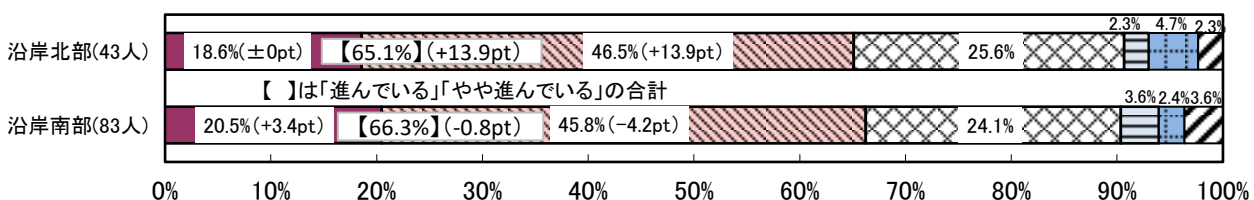


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤や道路の整備も着実に進んでいる。 避難場所の提示も各所でされている。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防波堤、道路網整備は完了し津波防災の面では充実し、高規格道が総合病院への通院時間を大幅に短縮された。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防災集団移転、高台移転(自力再建)。災害公営住宅が完成しているが、防潮堤工事が一部残っている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤はまだ工事中で、完了はまだまだ先と思える。高台移転が為されたので、その部分では、以前よりずっと安心。未曾有は今後もあり得るので、とにかく避難することは忘れないようにしたい。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤、インフラの整備は大分進んだが、震災の風化が見られる。防災に対する意識が薄れてきているように感じるので、意識を再度高める必要がある。インフラに防潮堤にばかりたよってはいは、又、おなじことを繰り返す。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆・三陸道が開通することで安心感はある。 ・津波に限らず、大きな自然災害が多数発生している現状があり、さまざまな災害に対応した総合的な計画や、建設が必要と思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆建設中の防潮堤も完成後の外観がイメージできるまでになってきている。加えて昨年の台風19号による豪雨被害を教訓とした災害対応工事も着実に進められており、災害に強いまちづくりは前進していると感じている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の整備、道路の整備も着実に進んでいると思う。ソフト面ではこれからの部分もありますが、ハード面では充分災害に強いまちづくりが進んでいると思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の整備や津波復興祈念公園の整備が進み、ハード面での“安全”は目に見える形で進んでいるように感じる。それに加えて、ソフト面での“安全”についてより進めていくことが大切だと思う。(小・中学校での防災教育の充実・市としての避難(防災)訓練の充実・震災経験の伝承他)(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤、避難路の整備等ほぼ完了されつつある。現在、進められている復興道路も日に日に進み、地域は大型トラックの往来や大がかりな工事が見られる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤の復旧、かさ上げ、住民の高台移転等、今後の起きうる災害を想定して対策を取っている。津波のみならず、台風による風水害対策については、まだまだ懸念すべき点は多く見られるので、十分な意見、対策を取るべき。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆閉伊川水門は遅れての完成となるのは、少し心配だが、道路はかなり完成したところが多く、安心感がある。だが、住民の防災意識は少しうすれてきている気がする。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆「東日本大震災津波からの復興」ということに限れば、防潮堤等の整備が進み、達成へ向かっているとと思う。しかし、「災害に強い安全なまちづくり」として考えると他の自然災害対策はまだ追いついていないと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆津波対策の防潮堤は完成した。しかし、台風に対する対策は遅れており、東日本大震災、平成28年台風10号、令和元年台風19号と3回も被害にあった世帯もある。避難のための訓練やハザードマップの周知などのソフト面での対策と台風による内水氾濫のハード面の対策が必要である。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の整備は進んでいると思うが、完成したときの効果がどのようなものなのか、北海道付近の地震による30mを超える津波対策はどうなっているのか疑問である。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

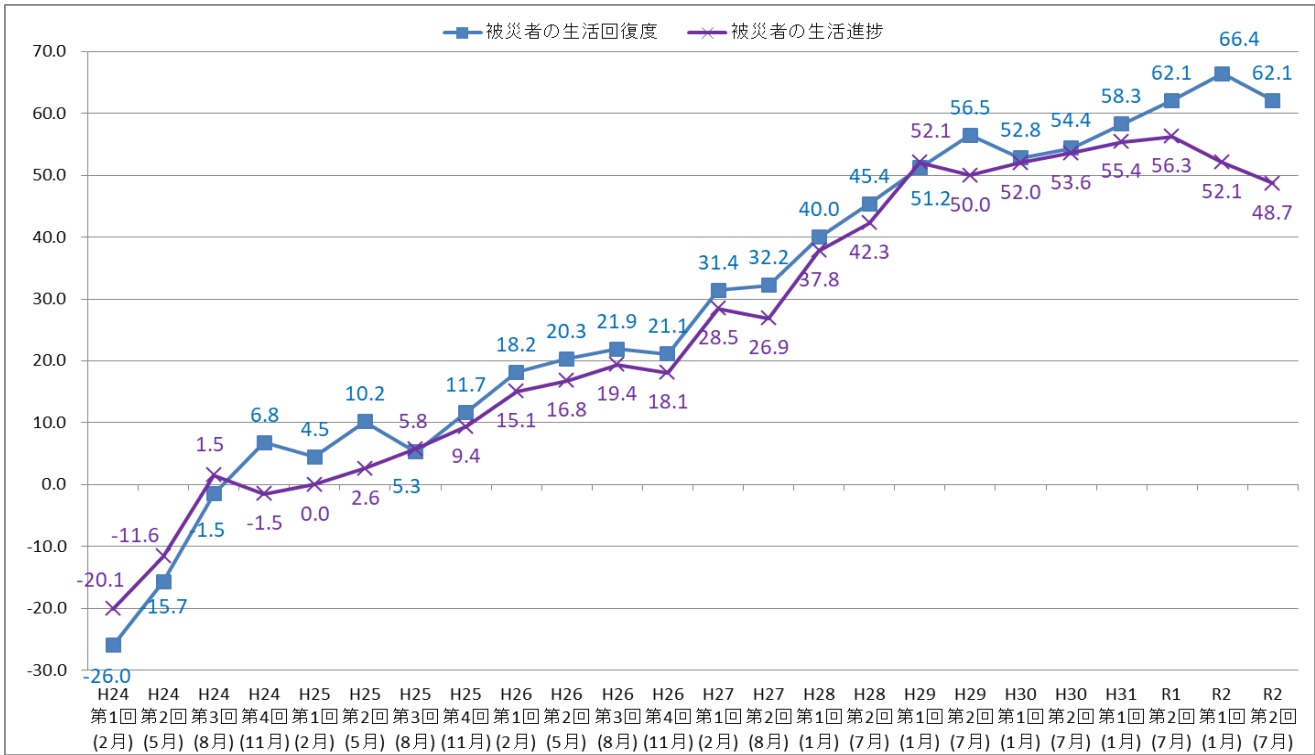
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

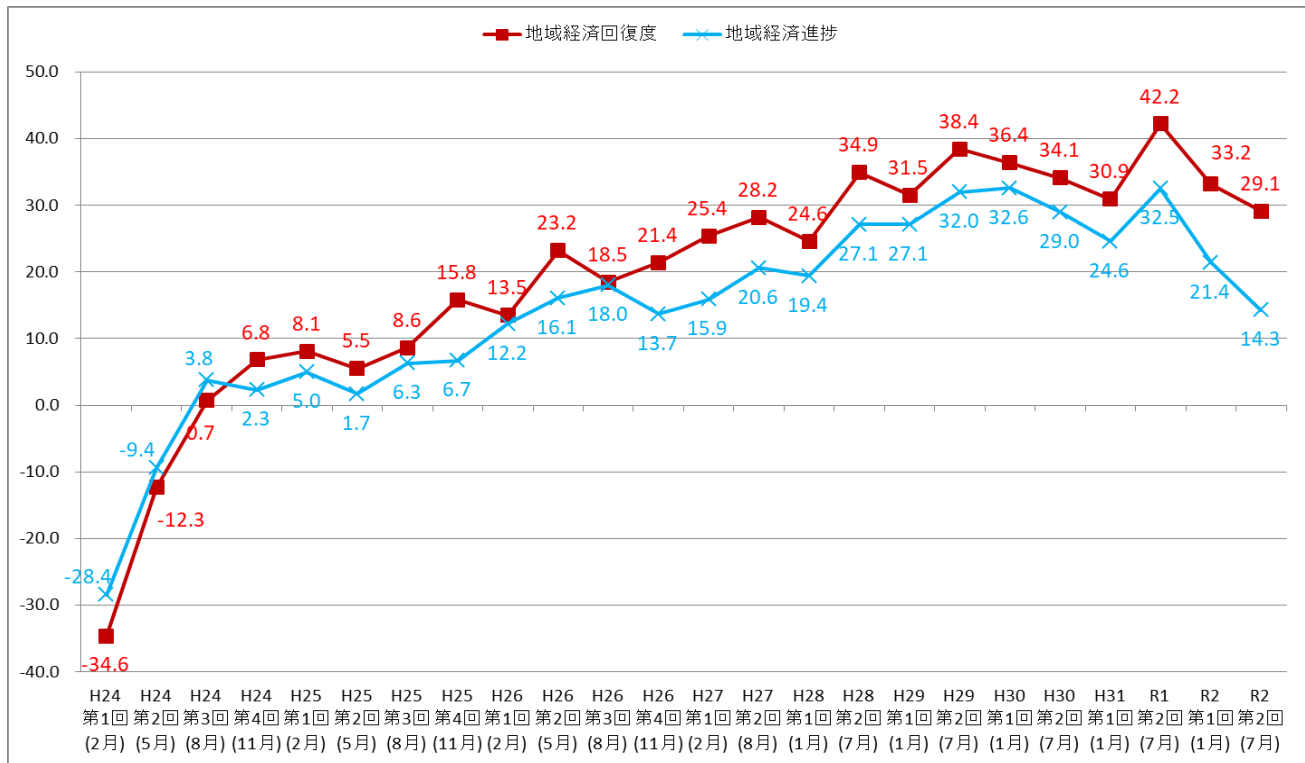
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



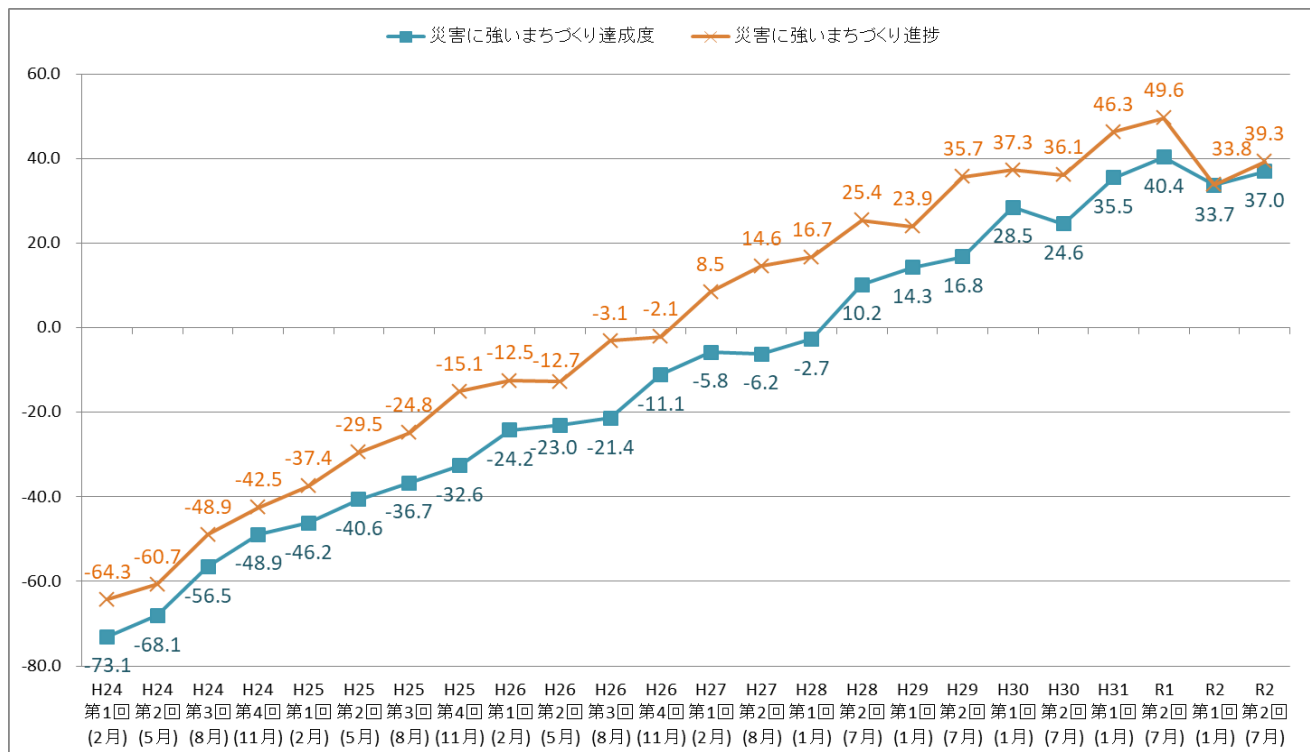
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年1月～R2年7月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年1月～R2年7月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年1月～R2年7月)を指す。

令和2年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和2年9月14日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6945

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363.html>